

冠詞の例外と慣用-講義

1 導入

この講義の核心は、Ch5の判断表を否定することではなく、その判断表だけでは処理しきれない領域があると明示することである。go to school、at home、play the piano、The tiger is an endangered species. のような表現では、可算性・特定性・既知性だけを機械的に当てても十分でない。ここでは、慣用ゼロ冠詞、総称、制度名詞という3つの観点でこの例外領域を整理する。

2 中心課題

なぜ go to school では the school にならないのか。なぜ動物一般を述べるときに Tigers are … と The tiger is … の両方が成り立つのか。なぜ play the piano の the は、特定の1台を指していないのか。

3 用語

- 慣用ゼロ冠詞: 通常なら冠詞が想定されそうでも、慣用的に \emptyset を用いる形
- 総称: 個別の対象ではなく、種類全体を述べる用法
- 制度名詞: school, prison, hospital など、建物でなく制度的機能を前面化して使う名詞

4 方針

Ch11では、冠詞で迷ったときに次の順序で確認する。

- まず Ch5の判断表で処理できるかを試みる
- それで不自然なら、総称か、制度名詞か、慣用表現かを疑う
- 個物を指しているのか、機能や制度や種類を指しているのかを切り分ける

→ [講義](#) 可算名詞と不可算名詞、冠詞の基本 [lecture](#) [english](#) [article](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/article/可算名詞と不可算名詞、冠詞の基本-講義/>

5 直感的な説明

Ch5の基本では、冠詞は名詞句の導入ラベルだと見た。Ch11の例外では、その名詞句が個物としてではなく、制度や活動や種類として見られているために、普通のラベルづけが変化する。たとえば go to school で焦点になっているのは「ある学校建物へ行く」ことではなく、「学校という制度に通う」という機能である。一方、go to the school なら、実際の建物や場所へ向かう像になる。

Display

- a. The child goes to school by bus.
- b. The parent went to the school to talk to a teacher.

a は制度参加、b は建物訪問である。この差を見ずに「school には the を付けないことがある」とだけ暗記すると、応用がきかない。

6 厳密な説明

6.1 1. 慣用ゼロ冠詞

go to school、be at home、go to bed のような表現では、名詞が場所そのものより制度的機能・生活機能を担う。このとき \emptyset は「特定の個物を指さない」という見方と整合する。一方、同じ名詞でも建物や場所を普通の可算名詞として扱うなら the school、the hospital のようになる。したがって、ここで見るべきなのは単語ではなく、「制度として使っているか」「建物として使っているか」である。

6.2 2. 総称の 3 型

総称には、少なくとも次の 3 型がある。

- \emptyset + 複数名詞: Tigers are endangered.
- the + 単数名詞: The tiger is an endangered species.
- a + 単数名詞: A tiger is a dangerous animal. のような定義的文脈

この 3 型は完全に同値ではないが、いずれも個別の 1 頭でなく種類全体を視野に入れている。したがって、単に「単数だから a」「既知だから the」と処理するのではなく、発話が総称かどうかを先に見抜く必要がある。

6.3 3. the が個物を指さない慣用

play the piano、tell the truth、in the morning のように、the が特定の 1 個の対象を指すわけではない慣用もある。ここでは the が定着表現の一部になっており、Ch5 の判断表だけで説明しようとすると無理が出る。ただし、これは「全部丸暗記せよ」という意味ではない。総称・制度名詞・定着表現という大きな類型で整理しておくと、未知の表現にも対応しやすい。

7 最小の具体例

7.1 例 1: 制度名詞

Correct

She was in hospital for two weeks.

[ART] 制度せいどとしての hospital をぜんめんか前面化している。

Correct

She visited the hospital two days later.

[ART] 建物たてものとしての hospital をあつか扱っている。

7.2 例 2: 総称

Correct

Whales are mammals.

Correct

The whale is a mammal.

Incorrect

The whales are a mammal.

[ART] 総称そうしょうの型かたがこんせん混線している。

7.3 例 3: 慣用表現

Correct

He can play the piano well.

Incorrect

He can play piano well.

[ART] 楽器名がっきめいの慣用かんようとして the ひつようが必要である。

8 別の見方

Ch5 では冠詞かんしを名詞句めいしくの導入ラベルどうにゅうとして見た。Ch11 では、それに「社会的な慣習しゃかいてきが上書きかんしゅうされる層うわががある」と考えると整理せいりしやすい。つまり、基礎判断きそはんだんとしては可算性かさんせい・特定性とくていせい・既知性きちせいを見るが、そのうえに「この名詞めいしは制度せいどとして使うか」「この文ぶんは総称そうしょうか」「この連語れんごは定着表現ていちゃくひょうげんか」という慣用層かんようそうが乗る。

9 見分け方

- Ch5 の判断表はんだんひょうを当てても不自然ふぜんなら、総称そうしょうか制度名詞せいどめいしか慣用表現かんようひょうげんを疑う

- school, hospital, prison, bed, home などで the の有無が揺れるときは、建物か制度的機能かを確認する
- 動物・職業群・発明品などを一般論で述べるときは、総称の型を確認する

10 どこまで成り立つか

この講義で挙げた類型は Ch11 の主要部であるが、実際の用法には地域差や文体差もある。たとえば hospital の Ø 用法は英米差が話題になりやすい。また、定着表現は個別性が高いため、最後は用例で確認する必要がある。

11 最終形

Display

冠詞の例外処理

まず Ch5 の判断表で考える

→ それで不自然なら

総称 / 制度名詞 / 慣用表現

のどれかを疑う

12 一言でいうと

冠詞の例外とは、規則が壊れていることではなく、個物でなく種類・制度・慣用として名詞が使われていることである。

13 関連リンク

→ [講義](#) [可算名詞と不可算名詞、冠詞の基本](#) [lecture](#) [english](#) [article](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/article/可算名詞と不可算名詞、冠詞の基本-講義/>

→ [定石集](#) [冠詞判断の定石](#) [reference](#) [english](#) [articles](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/articles/冠詞判断の定石-定石集/>

→ [問題演習](#) [冠詞の判断](#) [exercise](#) [english](#) [article](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/article/冠詞の判断-問題演習/>

→ [問題演習](#) [冠詞の慣用](#) [exercise](#) [english](#) [article](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/article/冠詞の慣用-問題演習/>

→ [講義](#) [英語ポータル](#) [lecture](#) [english](#) [overview](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/overview/英語ポータル-講義/>